

いしぐれ・こどもデザインワークショップ 2008

## 第一回「かえってきた！エアドームづくり☆」反省点

参加者：一年 11 人、二年 10 人、三年 4 人、四年 4 人、五年 0 人、六年 2 人／計 31 人

スタッフ：高村、立俵、神谷、西河、小久保、日置、山田、西村、平松／計 9 人

### 【良】

- ・ モシヤモシヤづくりを準備しておいたことが子どもたちを飽きさせない良いツールとなった。
- ・ 製作作業をできる限り省いたことで、大幅な遅れなく終了することができた。
- ・ かけっこをして、子どもの注意を集めたり、モシヤモシヤづくりに競争心を煽ったりするなど、スタッフそれぞれの機転が効き、集中を切らす子どもが少なかった。

### 【悪】

- ・ 家庭用の扇風機の強さを確認することができていなかった。(が、結果的に、あまり膨らまなかったドームとたくさん膨らんだドームとで差ができ、子供はそれぞれで違った遊びができて楽しそうだった)
- ・ 名札はあらかじめ作っておかないと、受付に時間を要してしまう。
- ・ 小学校から借りた電ドラの接触不良か電力不足が原因で、想定通りの遊びができなかった。  
くもう少し早く学校にいて、確認するべきだった。
- ・ 子どもが紙を切る作業と、スタッフが新聞紙を切り抜く作業のスピードバランスが合っていなかった。  
く新聞紙をあらかじめ切り抜いて持っていく、子どもたちの作業を手伝う形にするべきだった。
- ・ 窓に絵を描くためのマジックやアンケート用の鉛筆を持参し忘れた。  
く事前にチェックリストを作り、当日最終確認するべきだった。
  - ・ みずのりを使った際、机にのりがついてしまい、後で掃除が大変だった。く下に余分な新聞紙をしいてやるなどの工夫が必要だった。
- ・ 用意していたゲームをすることができなかった。  
く時間配分が非常に厳しく、盛り込むこと自体が難しかった。
- ・ 説明をするときに、本当に話言葉だけで伝わっているか不安だった。  
くスライドやボードなどで、示した方が良いのか。

### 【課題】

- ・ 今後慢性的にスタッフの人手不足が続くと思われるが、どのように対応していくのかしっかりと対策を練る必要がある。
- ・ しっかりと区切っていないと、ホップステップジャンプの三段階構造を明確化することは難しい。  
場所を変える、時間を区切るなどの対策方法が必要。